



今月のお知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、事業を変更する場合があります。ご了承ください。

ペン習字(いきいき)教室

日時：9月11日(月) 13時30分～
内容：「**絵手紙**」「**実用的な書**」など
準備：筆ペン
～いつでも、どこでも、誰でも、楽しめること。～



手話教室

日時：9月20日(水) 19時30分～
持ち物：**筆記用具**
「手話で簡単な日常会話、子どもから大人まで楽しく学びましょう。」



みんなの楽級

日時：9月18日(月・祝) 13時30分～
内容：**簡単マルチケースづくり**
材料費：500円
自分好みの生地で保険証やお薬手帳・通帳等を保管できるマルチケースを作ります。
みなさん、一緒に作ってみませんか？
参加申込先：さわやか人権文化センター(電話 28-2017)
申込締切：9月11日(月)



さわやかサロン

日時：9月21日(木) 13時30分～
内容：**みんなで手わやく**
簡単な作品を作りながらみんなでおしゃべりしましょ！

ゆとり教室

日時：9月25日(月) 11時00分～
場所：**上米積 老人憩いの家**
法話：阪本 仁さん
「一緒に生命の大切さを考えましょう」

さわやか人権文化センターだより



2023年9月1日発行 No.347
【発行所】さわやか人権文化センター
【所在地】〒682-0602 倉吉市上米積 1074-1
【電話兼ファックス】0858-28-2017
【メールアドレス】sawayaka@ncn-k.net

センターだより「さわやか」に関するご意見・ご要望をおよせください。

中国の遊びは楽しかったよ！

高城保育園・北谷保育園 異文化体験交流会

コロナ禍の中、3年間開催できなかった高城保育園・北谷保育園合同の交流会。今年度は両保育園の年長児がさわやか人権文化センターに集まり、交流会を開催することができました。

講師として国際交流員の金香蘭さんにおいでいただき、中国の文化や遊びにふれる活動を行いました。



初めは緊張して恥ずかしそうにしていた子どもたち。慣れるにつれて、元気よく大きな声で答えてくれて、楽しそうに活動していました。

最初に中国の紹介がありました。広い中国の北部地域と南部地域では生活文化が違ってきます。保育園の子どもたちにとっては少し難しいものもありましたが、分かりやすく説明していただきました。

中国に関するクイズでは、みんな真剣に考え、元気よく手を挙げ、大きな声で答えてくれました。

また簡単な中国語を教えていただき、あいさつや数字等を覚えることができました。子どもたちは初めて覚える中国語に興味津々。目を輝かせながら練習をする子どもたちの笑顔がとても素敵でした。

最後に中国東北地域の伝統遊び「一片技(パヤジ)」を作って遊びました。紙を切って、折って重ねて組み立てます。日本のメンコに似た遊びです。

自分で作った「一片技」で勝負を楽しんだ子どもたち。熱中して遊び、「保育園でも遊ぶ!」と嬉しそうにしていました。

日常ではなかなか触れることのできない貴重な体験ができた交流会でした。



くらしし人権フェスティバル 2023

～未来へつなぐ子どもの笑顔～

2023年10月7日(土) 10:00～15:00

倉吉交流プラザ(視聴覚ホール/第1研修室)

視聴覚ホール

- 10:00 開会
- 10:10～ 人形劇「ぐらぐらもりのおばけ」(やなせたかし:作)
倉吉人権擁護委員協議会
- 11:00～ トーク&ライブ
「生きていることの輝き～心を伝えあう子育て～」
心の元気講演家 石川達之さん
- 13:30～ 講演会
「おかげさまで支え愛～自己肯定感を育むために～」
山田節子さん
- 15:00 閉会

第1研修室

10:00～11:30

工作教室

「缶バッジ&ペン立て作り」
楽しく作って“自分だけのものづくりにチャレンジ!”

バルーンアート

鳥取大学バルーンアートサークル「Glanz」からバルーンアートのプレゼント!好きなバルーンアートを作ってもらおう!作成体験もできます。

災害時の人権

9月1日は「防災の日」です。

この日は、1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災にちなんだもので、また、この時期は台風の襲来が多く、「災害への備えを怠らないように」との戒めも込められています。しかし、ここ数年を見てみると、世界の各地で身の危険を感じる暑さや大規模な災害が起こっています。

今年の夏・・・

今年の夏は、日本の全地域で災害級の暑さが続きました。暑さだけでなく各地で大雨が相次いでいます。先月の動きが遅い大型で強い台風6号、7号の暴風や降雨は長時間、人びとの生活に影響を及ぼしました。

こうした激暑や豪雨、台風で犠牲者が出ています。そして、渇水や浸水、農作物への被害、土砂崩れ、道路や橋、家屋の損壊など、私たちの日常を一変させました。



2021年7月豪雨時の国府川（上福田付近）

鳥取県では・・・

7月13日、けたたましい雷鳴が響き、激しい雨によって各地で浸水や土砂崩れが起こりました。

さらに、8月15日には台風7号の暴風雨が鳥取県を襲いました。県東・中部では床上浸水や断水・停電、住民が一時孤立状態になった地域がありました。また、河川の増水・激流で橋や道路、川沿いの施設、農作物などへの被害も各所でありました。

この台風7号での24時間の雨量は、鳥取市佐治で515ミリと、平年の8月1か月分の2.5倍あまりに達しています。

2021年7月の豪雨

2021（令和3）年の7月8日には、降り続いた大雨で倉吉市内でも各地が冠水しました。このときは大きな河川の氾濫はありませんでしたが、私たちのすぐそばにある川や水路があふれたのです。

上米積地内でも大雨で水路があふれ、近くの住宅地や道路が冠水しました。冠水した道路では、水の流が速く、歩くと危ない場所がありました。この大雨で避難した人もいました。

災害時に誰一人取り残さないために

災害対策基本法には、避難行動において特に配慮を要するとして、高齢者、障がい者、乳幼児などが「避難行動要支援者」と定められています。また、私たちの地域社会にはさまざまな人が暮らしており、災害のときに感じる不安は一人ひとり異なります。

災害時に困ること、不安なこと

災害弱者の人たちが「災害時に困ることや不安なこと」として、被災直後の安否確認や情報不足、避難や避難所についての不安など、たくさんの声があがります。



災害時に障がいのある方や病気の方が困ったこと【一部】

- 地震直後、家の中や周囲の状況がわからなかった。（視覚障がい）
 - 体育館など広く大勢の人や物がある避難所では、一人で行動することが困難になる。（視覚障がい）
 - 避難場所に着いても情報が伝わらず、食事の配給などの援助がなかなか受けられないことがある。（視覚障がい、聴覚障がい）
 - 音声による情報では被害状況や避難場所がなかなか伝わらない。水害などの災害に気づかないことがある。（聴覚障がい）
 - 建物に閉じ込められた際などに、呼び掛けが聞こえず捜索者の存在に気づかない場合があり、救出につながりにくくなる。（聴覚障がい）
 - 地震がきても足元が不安定になり立ち上がることができないし、後ろにある家具が倒れるかもしれないと知りながら動くことができない。（身体の障がい）
 - 余震のたびにパニックになった。（知的障がい）
 - 地震後、少しの揺れに敏感になり、おびえて一人で過ごすことができなくなった。（知的障がい）
 - 状況や環境の変化に対応しづらく、突発的な事態に状況の把握ができない場合がある。（精神障がい）
 - 薬がなくなり、もらえるか不安だった。
 - 周囲とコミュニケーションがうまくできず、孤立してしまうことがある。
 - 断水に困る。人工肛門で汚物を処理するときに水が必要。
 - ペースト食のため、電気が使えなかったのでミキサーが使用できず、やむなく経管を入れ栄養をとった。
- * これはほんの一部です。同じ障がいや病気でも困ることは一人ひとり異なります。



避難所には、高齢者、乳幼児、女性、障がい者、妊婦、外国にルーツを持つ人などさまざまな人が集まります。地域によっては半数以上が高齢者というところもあります。

避難所の設営や運営では、女性や高齢者、障がいのある人などの意見から考えた配慮すべき点や豊かな体験に基づいた知恵を集めることも有用なことです。さまざまな人の声によって行われる避難所運営は、当事者だけでなく全ての人が利用しやすい避難所となるのです。

